

 シリーズ「きょうだいの思い」 25

『発作』

弟は20才を過ぎてから発作を起こすようになった。初めて発作を起こしたのは21才、自転車に乗っていた時に倒れたようで救急車で病院に運ばれたようである。その後の数回は、何故か決まったように外出先で起こしていて、弟が発作を起こす姿を家族が目にする事がなかった。

初めて家族の前で発作を起こしたのは、私と弟が2人で家にいた時だった。意識を失って、手足を硬直させて倒れている弟を見て、私はガタガタと震えながら名前を呼んだ。弟は少しすると意識を戻して起き上がったが、フラフラしてすぐに横になりしばらくの時間寝ていたのを覚えている。

ある時は、高速道路を運転していて助手席の弟を見ると、弟が眉間にシワを寄せて、今までに見たことがない顔になっていた。すると直ぐ弟の目が閉じたのと同時に発作が始まった。

まさかまさか、弟が二十才を過ぎて発作を起こすようになるとは本当にビックリだった。姉の私はビックリだが、両親はショックに近い気持だっただろうと思う。

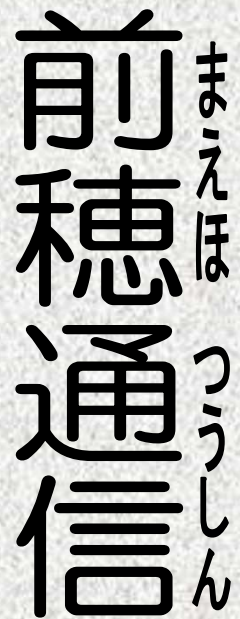
弟が通う作業所でも発作を起こすようになって、職員から教えて頂いて高槻病院に通うようになり、その後は色々な経緯があり、今は茨木市内の病院がかかりつけ医となっている。

もう20年近く、毎日欠かさずずっと薬の服用は続いていて、発作を起こす頻度は少ない方だが、今年の夏は7～8年ぶりに起こしたと聞いた。ヘルパーさんと外出中の時で、幸いなことに高槻市内だったので、両親が車で迎えに行くことが出来た。

弟は、発作を起こして体がどれだけ疲れていても、救急車で運ばれても、まず何より一番に『置いてきたままの自転車』が気になり、高速道路の時は約束した通りにサービスエリアで好きな買い物をしたし、今年の夏の時もヘルパーさんと母と共に、その後の行動をしたと聞いている。

弟にとって、発作後の疲れた体よりも、予定していたことの方が大事なのである。その日に予定していたことをクリアして初めて、発作を起こした体を休めることが出来るのだろうと思う。

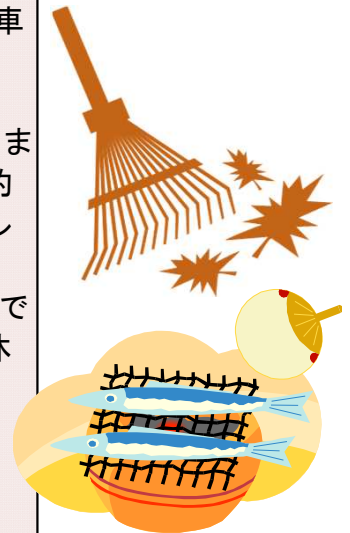
自閉症の弟のしんどさは、こういう時にも現れている。


 まえほ
 つうしん
 前穂通信

発行日

2013年10月1日

発行元

 自立センター前穂
 〒569-1022
 高槻市日吉台
 1番町21-18
 072-689-8600

 ショートからのお願いとお知らせ

～御持参品について～

①. 御持参品には、全てにご記名の程、何卒、宜しくお願い致します。

②. 歯ブラシ、髭剃り器、などは、ご持参頂くのを基本としております。

(万一お忘れの場合でも、歯ブラシなどして頂ける様に、標準品をご用意しておりますので、ご安心頂けますよう宜しくお願い致します)

